

郵政グローバル戦略タスクフォース

(第6回) 議事要旨

- 1 日時：令和6年7月1日（月）13:00～15:00
- 2 場所：総務省1階102会議室（対面での開催）
- 3 出席者：
 - ・ 構成員
生貝座長代理、飯田構成員、伊藤構成員、太田構成員、大道構成員、五味構成員、紺野構成員
 - ・ オブザーバー
日立製作所、日本郵便国際事業部
 - ・ 総務省
玉田郵政行政部長、青木国際企画室長
- 4 議事
 - (1) 開会
 - (2) 議題
 - ① 郵政グローバル戦略タスクフォース取りまとめ（案）
 - ② 意見交換
 - ③ その他
- 5 議事要旨
 - (1) 開会
事務局より開会の宣言があった。また、三友座長不在に伴い生貝構成員が座長を代理する旨、確認が取られ出席構成員の了承を得た。
 - (2) 議題
 - ① 郵政グローバル戦略タスクフォース取りまとめ（案）
総務省青木室長より、資料6-1に基づき説明があった。

② 意見交換

各構成員より、以下のとおり意見があった。

・ 郵政グローバル戦略タスクフォース取りまとめ（案）について

○取りまとめ案に記載のある、「郵政グローバル戦略チーム会合」のような関係者間の情報共有の場について、是非具体化して進めてほしい。特に、官民ファンドに限らずファイナンスに関係する機関も入っての議論は有意義である。

○2030年代の展望とのことなので、今後の取組として、時間軸や目標感を具体化していくことを期待する。

○2030年代の目標ということで、コスト競争力や生産性に関して、現状、5年後、10年後の目標について海外状況も含めて数字があると良い。

○「他業界・他分野との連携による地域貢献の取組の加速化」についての記載があるのは良い。2030年代を考えた際、例えばコミュニティーナースの増加に見られるように、地域で存在感のあるハブの存在が想定されるため、こういったハブとの連携方法が具体的に見えるといい。

○NPS（顧客推奨度）の高い郵便局とそういったハブとの連携が進んでいる地域での事例などを共有していくことにより、2030年代には郵便局が地域の新しいハブとして進化していることと思う。

・ 全体を通して

○本タスクフォースを通じて、外部の知見を含めた形で郵便分野に関する様々な検討・整理がなされ、また多様な企業との協業の可能性の示唆など、将来に向けた重要な成果が得られた。日本郵便としてしっかり取り組んでいきたい。

○本タスクフォースを通じて、UPUの活用という大きな気付きが得られた。日本郵政グループとしては新しいアプリが高評価を得るなど、デジタル化の取組を着実に進めているた

め、そういった取組も含めしっかり展開していきたい。

○経済安全保障の分野では、米国において世界最大手の中国メーカー製ドローンの新機種販売禁止の動きがあるなど、あらゆる分野でより一層アンテナを高く持つ必要性があると感じる。今後においても、本タスクフォースの会合同様、各分野での情報を関係者間で密に共有しながら、引き続き取り組みを進めていきたい。

○本タスクフォースを通じて、普段触れることのないような様々な情報を得て、郵便分野を巡る状況を様々な側面から理解できた。本会合で議論された問題点や解決策については、広く知られることが重要であるため、一般の利用者への情報提供が重要であると感じた。

③ その他

取りまとめ案については、座長一任とすることで了承を得た。

以上